

別表 指定課題一覧表

No	市町名	地域課題（指定課題）
1	浜松市	浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究
2	沼津市	「沼津市健康増進計画」中間見直し評価及び市民アンケート集計・分析
3	沼津市	狩野川の水辺活用と周辺商店街の活性化
4	三島市	グローバル都市三島に必要なグローバル人材育成方策を究明する
5	富士宮市	中心市街地の回遊性についての研究
6	富士宮市	農山村コミュニティ維持・再生の研究
7	島田市	ワーク・ライフ・バランス推進施策の調査・研究・提案
8	富士市	富士市制50周年記念事業の提案
9	富士市	事業所の製品・サービスの改良・改善・販路拡大等に関する調査・研究
10	焼津市	若者に選ばれるまちづくり
11	掛川市	「大学生等のUターン就職に向けた施策」の調査・提案
12	藤枝市	効果的な中山間地域への移住施策
13	藤枝市	人口減少、高齢化が進む中山間地域で、地域でささえる公共交通のあり方
14	裾野市	裾野市の健康づくり事業の今後の効果的な事業展開方法について
15	裾野市	放課後児童クラブ夏休み中のニーズ調査と運営検証・研究
16	裾野市	深良用水を地域資源とした活性化について
17	伊豆市	2020東京オリンピック・パラリンピック、2016アジア自転車競技選手権日本大会受入体制の構築に関する調査研究
18	伊豆市	伊豆市の特産品を生かした『とっておきのお土産』の商品開発
19	伊豆の国市	伊豆の国市の観光に係る課題とその解決方法の調査
20	伊豆の国市	古奈温泉あやめ小路界隈における空き店舗活用による温泉街の活性化
21	小山町	富士山特産林産物開発
22	川根本町	地域資源の発掘と資源を活かしたまちづくり

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	浜松市	No. 1	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			浜松市天竜区佐久間町における地域づくりの方策の研究

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>佐久間地域は、浦川歌舞伎や川合花の舞を始めとした民俗芸能等の文化とともに、かつて、海の幸、山の幸を運ぶ「塩の道」となった甲州街道(秋葉街道)が通り栄えていたが、近年は高齢化率及び高齢者のみ世帯率ともに50%を超え、商店の閉店も進み、過疎地域特有の課題を抱えているところである。</p> <p>この課題解決には、行政だけでは限界があり、若い人材や高度な知識を有する地域の大学の協力が必要不可欠である。しかし、市内都市部では大学が多数あるが、中山間地域にはないことから、公共交通機関の問題からも、佐久間地域での大学の積極的な活用が進んでいない。</p> <p>とりわけ、静岡文化芸術大学の船戸ゼミは中山間地域の研究を専門に行っており、H25は春野地域、H26は龍山地域と、フィールドワークを中心に、市内中山間地域の抱える課題・要因を調べ、浜松市や地域住民へ課題のフィードバックをはじめ、課題解決に寄与しており、佐久間地域においても、引き続き協力をお願いしたい。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>進行する過疎化を食い止めるためには、地域の個性や資源を理解し、地域の住民が主体となって、地域の課題解決や地域おこし活動を行うことが非常に重要である。とりわけ、大学生等がその取り組みに携わることは、都会の若者に地域への理解を促すとともに、地域にとっての気付きにも繋がる。</p> <p>既に農山村や中山間地域について研究を始めている静岡文化芸術大学の教員と学生が、積極的に現場に入り、フィールドワークを中心として、地域の住民や協力団体とともに、地域の課題解決に取り組み、佐久間地域の活性化に資する調査・研究を行ってもらうことを期待している。</p> <p>特に、春野や龍山と異なる佐久間地域の課題の特性や、“歴史と民話の郷”と呼ばれる佐久間地域の豊富な伝統文化についても、研究対象として、新たな北遠地域の可能性が浮かび上がることを期待している。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市佐久間協働センター ・佐久間地区自治会連合会 ・浜松山里いきいき応援隊 ・地域づくり団体(地域のNPO法人等) など 		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例:所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>市の市民協働・地域政策課や佐久間協働センターが、静岡文化芸術大学の学生と佐久間の自治会や地域づくり団体との橋渡しを行うとともに、フィールドワークを行うにあたり、市民協働地域政策課及び佐久間協働センター職員、また市が委嘱する浜松山里いきいき応援隊が適宜サポートをすることで、円滑に調査・研究が行われるよう支援する。</p> <p>また、必要に応じ、協働センターの会議スペース等を無償貸与する。</p>		
<p>連絡先</p>	所 属	市民部 市民協働・地域政策課 中山間地域グループ	
	連 絡 先	TEL	053 (457) 2243
		FAX	053 (457) 2750

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	沼津市	No. 2	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			「沼津市健康増進計画」中間見直し評価及び 市民アンケート集計・分析

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>沼津市では、市民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけ、健康寿命を延ばせるよう市民・行政・事業者等が協働して健康づくり活動の推進を図ることを目的に「沼津市健康増進計画」を策定した。本計画はH23～32年までの10年計画とし、H27年度に国や静岡県の行政施策の動向や社会情勢の変化にも踏まえながら、計画の中間評価と見直しを実施する。これに伴い計画策定時と同様に市民2,100人に生活に関するアンケートを実施予定である。</p> <p>計画は、基本理念：生涯健康！笑顔で暮らせるまち めまづとし、基本方針は1一次予防を重視した領域ごとの健康づくり2市民主体の健康づくり3市民・家庭・地域・学校・職場・行政等が連携した健康づくりとした。これを柱に各領域（食生活、運動、休養・こころの健康、たばこ・アルコール、歯・口の健康、健康管理、健康づくり環境の整備）で、施策と目標値を立てて事業を実施している。</p>			
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>「沼津市健康増進計画」の中間見直し評価を実施するために、H27年度に市民への生活に関するアンケート調査を実施する。</p> <p>ゼミに期待することは、そのアンケート調査終了後からの作業である①アンケート結果のデータ集計及び分析②前回計画策定時のアンケート結果との比較や分析結果から計画に対して、施策の事業達成度や施策内容に関する提言などの作業報告を依頼する。</p>			
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>沼津医師会、沼津市歯科医師会、東部保健所、沼津市自治会連合会、沼津市社会福祉協議会、沼津市老人クラブ連合会、沼津市体育協会、沼津市保育園連盟、沼津市校長会、沼津市健康づくり推進員連絡協議会、沼津薬剤師会、8020推進員など</p>			
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>各関係団体への橋渡し</p>			
<p>連絡先</p>	<p>所 属</p>	<p>市民福祉部</p>	<p>健康づくり課</p>	<p>成人保健係（特定保健指導担当）</p>
	<p>連 絡 先</p>	<p>TEL</p>	<p>951-3480</p>	
		<p>FAX</p>	<p>951-5444</p>	

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	沼津市	No. 3	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			狩野川の水辺活用と周辺商店街の活性化

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>沼津市の中心市街地は、昭和30年代から県東部広域から買い物客を集める商業地として栄えてきましたが、近年は商業を取り巻く状況の変化、駅前大型店の撤退などもあり、以前のような活気がなくなってきています。</p> <p>沼津市では、空き店舗対策や商店街支援などの商業振興に取り組むとともに、これまであまり着目されてこなかった楽しむ場所、暮らす場所としてのshigaichiの魅力を再発見し、発信することで、新たにまちを訪れる人を呼び込んでいきたいと考えています。</p> <p>このような中、沼津のまちなかを流れる狩野川では、国が河川利用のルールを緩和したことをきっかけに、国や市、商店街などが協力して、平成25年度から色々な新しい試みが行われています。これまで公共的な利用しか認められなかった河川護岸を利用して、オープンカフェやバーベキュー、マーケットなどの営業が可能になり、イベント開催などもしやすくなってきています。</p> <p>これらもあり、狩野川の水辺を訪れる人は以前に比べて増えてきていますが、既存の商店街やまちなかの活性化どのようにつなげることが課題となっています。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>狩野川の水辺の活用を盛んにしていくことが、どのように商店街や中心市街地の活性化につながるのかがテーマです。全国でも取り組みがはじまっている水辺の活用のキーとなるのは民間事業者ですので、彼らに積極的に水辺の活用に関わってもらい、この取り組みを支持してもらうためには、日常的に水辺に人を集めるだけでなく、商店街などの周辺も合わせて活気を生んでいくことが必要だと考えます。</p> <p>そこで、学生の新鮮な視点で、実際にいろいろな活動を体験し、周辺の商店街の人たちや、付近に住む人たち、利用者などを調査しながら、狩野川の水辺利用が周辺の商店街にどのような恩恵が与えられるのか、良い効果を生むためにはどのような方法があるのかなど、ご提案をいただければと思います。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津あげつち商店街 ・上土おかみさん会 ・上土町自治会 ・沼津かのがわ利用調整協議会 ・国土交通省 ・沼津市 など 		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街や自治会などとの橋渡し ・活動場所の提供(あげつち会館、ロットンなど) ・水辺のバーベキューや狩野川カヤックなどの体験 		
<p>連絡先</p>	<p>所 属</p>	<p>産業振興部 商工振興課 商業係</p>	
	<p>連 絡 先</p>	<p>TEL</p>	<p>(055) 934-4748</p>
		<p>FAX</p>	<p>(055) 933-1412</p>

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	三島市	No. 4	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			グローバル都市三島に必要なグローバル人材育成方を究明する

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>三島市は海外姉妹都市提携を全国で4番目(県内初)に始め、市民が当時から国際交流に関心のある地域性があり、また、三島駅北口の文教地区には、日本大学国際関係学部、文部科学省が今年度から推進するスーパーグローバルハイスクールに県内で唯一指定を受けた県立三島北高校のほか、小中学校、幼稚園、通信教育会社の本社、学習塾、企業の研修施設等が集積する県内有数の文教都市である。このような背景、地域特性、立地環境を生かし、来年度、関係機関で構成されるグローバル人材育成都市を推進する組織の設置に向け、各学校、関係機関との調整を行い、既に賛同を得ている。本組織を発足させ、これまで以上にグローバル人材育成のため、企業、各学校、自治体の産・学・官の連携により効果的に事業を実施するにあたり、その核となる日本大学国際関係学部の教員・学生と連携し、大学(ゼミ)と行政・企業等が参加する事業の企画、ニーズ及び課題の調査と諸問題の究明を行い施策に反映させたい。さらに、地域や小学校児童と学生(留学生を含む)との交流を図る事業の実施など地域資源を生かした連携が、これまで以上に求められていることから、日本大学福井ゼミとの連携により関連する事業を企画・試行し、課題を整理する。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>本市が実施に向け準備しているグローバル人材育成事業のひとつとして、大学(ゼミ)と連携した事業を実施するにあたり、小中学生・高校生⇄大学生・留学生の相互交流、多文化共生への理解や行政・企業等と大学がどのような連携事業が実施できるかを研究課題とし具体的な協議、調査研究、試行事業を行い、提言にまとめる。また、大学(ゼミ)が地域連携を推進するにあたり、グローバル人材育成に関連する研究課題も含め、大学生や地域ニーズを把握する調査を併せて実施する。既に大学(ゼミ)は地域に根差した事業を実施していることから、これまで以上に地域連携を深めていくため、グローバル人材育成に密接に関連する国際関係学部のゼミと行政等が一体となり事業を実施することで高い効果を生み出し、未来都市グローバル人材育成を目指した「大学のある文教都市」三島にふさわしい街づくりの推進について諸条件を究明し提言にまとめる。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>三島市国際交流協会 市内の大学(日本大学、順天堂大学、総合研究大学院大学(国立遺伝学研究所)) 市内NPOをはじめ多文化共生、国際交流関係団体、自治会などの団体 市内の高校、小中学校</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例:所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>三島市国際交流協会との連携 三島市や商店街等が主催する事業への参加の斡旋 市内の他の大学を始め、高校、小中学校との連携 企画した事業の実施に当たり利用可能な施設の斡旋</p>		
<p>連絡先</p>	所 属	企画部 政策企画課 企画・土地政策係	
	連 絡 先	TEL	055 (983) 2616
		FAX	055 (976) 3155

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	富士宮市	No. 5	学生に取り組んでもらいたい地域課題等		
			中心市街地の回遊性についての研究		

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>富士宮市は平成27年度から世界遺産のまちづくり構想をスタートさせる。この構想は、世界遺産構成資産の浅間大社や平成29年度に開館する世界産センターを核としたまちづくり構想であるが、賑わいある空間の実現に当たっては、民間活力や経済が動くことが重要となる。</p> <p>民間が積極的に参加しやすい環境の一つとして、街中に若者が「集う」こと、「行きたくなる」こと、「買い物したくなる」ことが重要な要素となる。</p> <p>世界遺産構成資産の浅間大社や世界遺産センターという県の大型施設など、人を惹きつける素材は、他市の中心市街地に比べ十分に備わっているが、商店街などの賑わいや人が回遊しないのが、現状であり課題となっている。</p>				
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>消費を生むには、人の流れが重要でもあり昼だけでなく、夜の賑わいも大切であると考え。富士宮市近郊に住む若者が昼ならこゆうところに行きたくなる。夜に集うならこのような場所が欲しいなど、若者目線のニーズ調査が大学など高等教育機関のない富士宮市では不足している。国際化やネット社会など、今後は更に若い世代の発想によるまちづくりが求められると考えられるため、小売業界の体制の変革も踏まえ、中心市街地の役割と若い目線による新たな提案に期待したい。</p>				
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮市観光協会 ・富士宮商工会議所 ・市内の母親で構成される団体 				
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただけましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>所有施設の無償使用(会議室等)</p>				
連絡先	所 属	企画部		未来企画課課	地域政策推進室
	連 絡 先	TEL	0 5 4 4	(2 2)	1 2 1 5
		FAX	0 5 4 4	(2 2)	1 2 0 6

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	富士宮市	No. 6	学生に取り組んでもらいたい地域課題等		
			農山村コミュニティ維持・再生の研究		

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	地域の歴史文化や伝統行事の継承、山間地の農地や林地の保全という国土保全の観点からも、農山村の集落維持は必要であると考え、人口減少期を迎えた日本にとっては、農山村集落の維持は、全国的な重要な課題となっており、富士宮市においても耕作放棄地の増加、森林の荒廃、集落が運営する簡易水道の維持作業など、高齢化や過疎化により地域問題も具体的に浮上している。				
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	農山村の集落維持など地方部では、人口減少による問題も深刻化しているが、一方で、「田園回帰」などと言われるように、若者が農山村に求めるニーズも多く、都市部にはない生活環境や自然環境が若い人を引き付ける魅力が、農山村にはある。 このため、農山村の魅力をより伸ばすべく、若者の発想による、農山村の魅力向上に繋がる「農業」「食」「自然環境」などを活用した調査研究に期待したい。				
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会(区長会) ・農協(JA) 				
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) <ul style="list-style-type: none"> ・所有施設の無償使用(会議室等) 				
連絡先	所属	企画部 未来企画課 地域政策推進室			
	連絡先	TEL	0544	(22)	1215
		FAX	0544	(22)	1206

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	島田市	No. 7	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			ワーク・ライフ・バランス推進施策の調査・研究・提案

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>ワーク・ライフ・バランス(WLB)については、少子化対策、男女共同参画、企業等の生産性向上など様々な視点からその重要性が指摘され、国・地方公共団体で取組が行われているが、中小企業では、育児休業などの両立支援策、長時間労働是正策の両面とも進んでいない状況である。</p> <p>本市の企業・事業の状況は、30人以下の中小企業が95%を占めており、WLBの実現には、企業等の規模、業態等に適合した施策の推進が不可欠である。</p> <p>WLBの実現は、まち・ひと・しごと創生事業においても主な施策に掲げられていることから、中小企業に対する施策の計画立案が喫緊の課題となっている。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>学生の知見から、施策の提案をお願いしたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市内企業、事業所のWLBの取組の現状の調査 2. 他地方公共団体のWLB推進施策の調査と評価 3. 本市のWLB推進施策の提案 <p>* 施策は、市内中小企業を対象としたものとする。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>島田市男女共同参画推進委員会 厚生労働省労働基準局労働条件政策課</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>地域の経済団体等への橋渡し ワークショップ実施時の消耗品等の提供</p>		
連絡先	所 属	<p>企画部 企画課 企画調整係 ※平成27年度からは、地域生活部 地域づくり課 女性活躍推進担当</p>	
	連 絡 先	TEL	0547-36-7121
		FAX	0547-37-8200

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	富士市	No. 8	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			富士市制50周年記念事業の提案

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	<p>平成28年11月1日をもって、本市は市制施行50年を迎えることから、これを機会として「生涯青春都市」富士市の内外に向けた発信を行い、更には、本市発展の礎を築いた先人の労苦を讃えとともに、これからの50年を見据えた新たな富士市づくりに向け、市民意識の醸成を図るため、平成28年を記念イヤーと位置づけ、各種イベントやその他の記念事業の展開を予定している。</p> <p>本事業は、新たな富士市づくりを行うための施策の一つとして、学生による市民と一体になった、富士市らしい事業計画の検討・提案を行うものである。</p>		
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	<p>50周年記念事業の学生提案を求めるものであり、効果的に広く市民が参加できる事業を期待する。</p> <p>いわゆる「ハコモノ」の建築等ではなく、アイデアを生かし、50周年事業として、子どもからお年寄りまで広く市民の心に残る・記念になる事業を期待するところである。</p>		
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>大学側からの提案検討内容によって、地域団体との連携やその他情報収集等が必要な場合があれば、連携できるための支援を行う。</p>		
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <ul style="list-style-type: none">・富士市内で行うフィールドワークや情報収集の場の提供・作成段階における意見交換会や中間報告の設定		
連絡先	所 属	総務部 企画課)	
	連 絡 先	TEL	0545 (55) 2718
		FAX	0545 (53) 6669

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	富士市	No. 9	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			事業所の製品・サービスの改良・改善・販路拡大等に関する調査・研究

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>多くの中小企業等においては、地域の資源である大学との交流等の機会が少なく、また、費用的な制約等から、若者の視点を取り入れた製品の改良、改善、販路開拓等を行うことは困難である。このため、市内事業所等から寄せられた自社製品・サービスの改良・改善、販路拡大等について大学生が調査研究を行い、ビジネスプランを提案することを目的に、本事業を活用して国立大学法人静岡大学との連携を図りたい。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>市内事業所等から寄せられた自社製品・サービスの改良・改善、販路拡大等について、若者の視点を活かした実践的なビジネスプランの提案を期待したい。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>・事業所及び富士市 ※必要に応じて、富士商工会議所、富士市商工会、富士市産業支援センターf-Biz 等</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所募集の際の市の広報誌やウェブサイトへの掲載、報道提供、チラシの作成及び産業支援機関等(富士商工会議所、富士市商工会、富士市産業支援センターf-Biz、富士市立中央図書館)への配架依頼 ・意見交換会、報告会の会場提供(無償貸与) ・産業支援機関の助言が必要な場合にはその連絡調整 ・調査・研究成果等の報道提供 		
連絡先	所 属	産業経済部 産業政策課 工業振興担当	
	連 絡 先	TEL	0 5 4 5 (5 5) 2 7 7 9
		FAX	0 5 4 5 (5 1) 1 9 9 7

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	焼津市	No. 10	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			若者に選ばれるまちづくり

* 本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	人口減少社会を迎え本市としてもその対策が課題となっているが、本市の近年の傾向として、特に若者世代の転出が転入を上回っていることが、人口減少の大きな原因となっている。 高校卒業後、他県の大学等へ進学するために一時的に若者世代が減少するのは以前からの傾向であり、卒業後、転出した若者が再び地元に戻ってくることで転入出のバランスがとれていたが、近年は、就職時に本市へ戻ってくる若者が減少したため転出超過となっており、その対策をしていくことが課題となっている。 その課題の解決のためには、地元として若者を受け入れる体制作りが必要であるとともに、若者が高校卒業後も地元へ愛着や繋がりを持つ仕組みを検討し就職時に地元を選択してもらう仕組みを作る必要がある。				
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	若者の視点から、若者が地元へ愛着や繋がりを持つ仕組みを検討するとともに、若者が大学卒業後に住みたい理想のまちについて検討し、現状の焼津市と比較することで焼津市の課題を明確にしていく。 今年度は、取り組みの中で若者が帰省する8月にイベントを開催し、若者に改めて地元の良さを知ってもらうとともに友人等と一緒にイベントに参加してもらうことで、地元との繋がりを作ってもらうことを予定しているため、市とともにイベントの企画・開催を共同で実施したい。				
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等					
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) 焼津市が提供するもの イベント開催費用の提供、イベント会場の確保・準備、地元との調整、イベントの取りまとめ イベント開催や企画検討、準備に当たり、市の関係課や関係団体の人的協力も行う。				
連絡先	所 属	未来創造部	まちづくり政策課	政策企画担当	
	連 絡 先	TEL	054	(626)	2141
		FAX	054	(626)	2185
e-mail	kikaku@city.yaizu.lg.jp				

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	掛川市	No. 11	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			「大学生等のUターン就職に向けた施策」の調査・提案

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	総務省発表の「平成26年住民基本台帳人口移動報告」によると、県内の多くの市町が人口流出超過であり、掛川市においてもその傾向は同様である。特に、高校卒業から就職・結婚までの世代の流出は顕著で、全流出超過数279人中、15～19歳が84人、20～24歳が91人の流出超過となっている。												
		0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
	男	-11	2	4	-51	-29	5	7	-33	-17	-15	-11	15
	女	15	-14	3	-33	-62	-11	-13	-6	-8	-21	5	9
計	4	-12	7	-84	-91	-6	-6	-39	-25	-36	-6	24	
	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計					
男	0	-3	0	-2	5	1	5	-128					
女	2	-15	2	3	-1	-1	-5	-151					
計	2	-18	2	1	4	0	0	-279					

希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	大学等進学のために掛川市を離れた学生に対し、卒業後地元でUターンして就職を促すためには、行政としてどのような実効性がある支援が求められているか。全国的な事例としては、都内に地域での就職支援センターの設置、地域企業とのマッチング(面接)、Uターン就職者対象の奨学金助成等、様々な施策が実施されているが、掛川市の地域資源を活かした「掛川市ならではの」Uターン就職支援施策について、学生本人の目線で調査・研究をお願いしたい。
----------------------	---

地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川市、掛川市教育委員会 その他、商工団体、農業団体等
--	--------------------------------

ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) 各種統計の提供 関連団体、企業等への橋渡し 打合せ場所(市役所等)の無償提供 等
---	--

連絡先	所 属	企画政策部 企画調整課 経営戦略係	
	連 絡 先	TEL	0537-21-1127
FAX		0537-21-1167	

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	藤枝市	No. 12	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			効果的な中山間地域への移住施策

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	地域活性化事業の一つとして平成23年12月からスタートした「藤枝市空き家バンク事業」制度を活用し、移住したい人や、地域住民・空き家所有者を対象とした事業を展開し、今日までに、12世帯が山間地に移住した。 しかし、地域創生で地方が注目される中、全国の他の自治体との競争が熾烈化し、藤枝市ならではの独自性や魅力を打ち出す必要がある。 H27に本市では、「中山間地域活性化推進計画」中間見直しを行う予定であるが、移住に関して、この計画に反映でき、新たな事業展開ができる提言をいただきたい。		
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	希望する調査研究内容の概要は以下となる。 (1) 藤枝市の中山間地域に既に移住した人を対象に面接調査を行い、移住に至る経緯を概観する。 (2) 移住促進に関わる取り組み(空家見学会等)への視察調査を通し、どのような取り組みが効果的であるのかを明らかにする。 (3) 地域活性に関わる団体への面接調査、アンケート調査により、藤枝市の中山間地域が直面する課題、問題点を洗い出す。 (4) 移住に関心をもつ人への面接調査を行い、どのような支援が望まれるのか分析を行う。以上4点を中心となるが、大学生が中山間地域に足を運び、地域の人との交流を重ねることで、活性化計画促進の一助となるため、多くの人的交流の機会を設けてほしい。		
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	(予定) ○瀬戸谷生き生きフォーラム ○ゲンキな故郷いなば ○白ふじの里実行委員会 ○玉取村づくり会議		
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例:所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) ○所有施設の無償貸与 ○地域団体への橋渡し		
連絡先	所 属	産業振興部	中山間地域活性化推進室 推進係
	連 絡 先	TEL	054-639-0120
		FAX	054-648-2755

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	藤枝市	No. 13	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			人口減少、高齢化が進む中山間地域で、地域でささえる公共交通のあり方

* 本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>全国的に中山間地域の公共交通機関が問題となっているが、藤枝市瀬戸谷地区内を運行する藤枝市自主運行バス(大久保上滝沢線)も利用者が激減し、運行継続が厳しい事態となっている。</p> <p>藤枝市瀬戸谷地区は、藤枝市の最北部に位置し、市面積の約30%をしめ、瀬戸川沿川に2500人(市の1.6%、高齢化率33%(平成25年3月現在))が暮らす中山間地域である。豊かな自然環境を背景に、茶の栽培と稲作、野菜等を組み合わせた農林業中心の農山村を築いてきたが、近年は、農業を生業とした農家も年々減少し、若者の流出も進み、人口は、毎年60人程度減少しているのが現状である。</p> <p>このような中、瀬戸谷地区の公共交通は、バス事業者による運行が困難になり、市が事業者に事業補てんを行ってきたが、利用者が伸びず、事業者は撤退、市による自主運行バスの運行(公募の管理者による運行)に至っている。</p> <p>高齢化が進む地域のコミュニティのつながりを図ることや子ども達の通学通園の役割も担う意味でも、自主運行バスの存続は必要であるが、収支率15%以下の場合は、廃止を含めた検討が必要になるため、存続が喫緊の課題となっており、地域において早急に対策を立てる必要に迫られてきている。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>(1)住民向けのアンケート調査を行う。 分析調査やヒアリング調査、外部へのアンケート調査等を行い、今後想定される地域で担う公共交通(住民参画)のあり方の研究。</p> <p>(2)住民の移動手段だけでなく、現在も行っている外部からの訪問客に、バス利用していただくための施策等(ICTも含めて)についても、大学や学生の持つ知識の活用を図りたい。また、学生が地域の活動(交流)に参加し、地域の魅力を発信し、若者の定住促進など地域の活性化に繋げる。</p> <p>(3)全国各地の中山間地域における公共交通機関の状況や取組みを収集、分析を求む。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>○瀬戸谷生き生きフォーラム 全世帯が会員として加入し、町内会、及び、各種団体から委員を選出し4つの委員会を設けて活動をしている。地区の総合的な(産業、観光、文化など)振興を図っていくための組織</p> <p>○せとやコロッケの会 地域食材を活かしたご当地コロッケの販売など地域の魅力の創出や課題解決に取り組む組織</p> <p>○せとコロ応援団(瀬戸谷外の支援団体) ご当地キャラクターを通じて自主運行バス支援など瀬戸谷地区を応援する団体</p> <p>○ふるさと瀬戸谷(株) 自主運行バスを市から委託を受けて運行するローカルマネジメント会社</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>○地域団体 ゼミと連携した活動の展開や共同研究、自治会町内会への橋渡し、藤の瀬会館(活動拠点、会議等を行う場所)の利用支援、地域案内(地域特性紹介)</p>		
<p>連絡先</p>	所 属	産業振興部 中山間地域活性化推進室 推進係	
	連 絡 先	TEL	054-639-0120
		FAX	054-648-2755

(ゼミ学生地域貢献推進事業費助成)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	裾野市	No. 14	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			裾野市の健康づくり事業の今後の効果的な事業展開方法について

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>・平成23年度から平成32年度までの健康づくりに関する計画「すその健康増進プラン」は、平成27年度に中間評価を行い計画書の見直しを行う。また、裾野市食育推進計画は平成27年度末に計画期間が終了し、歯科保健計画は平成27年度に策定予定となっている。このため平成26年度に市民のニーズや健康に関する生活状況を把握するために市民(1,000人)を対象としてアンケート調査を実施した。</p> <p>・裾野市の背景として、</p> <p>○平成23年度特定健康診査 標準化該当比で、女性は肥満症・高血圧有病者・脂質異常症有病者が全県に比べて有意に多く、男性はメタボ該当者・肥満症・高血圧有病者・脂質異常症有病者が全県に比べて多い結果であった。</p> <p>○平成24年度に県が発表してお達者度(平成21年度結果)では男女とも県内で4位の結果であったが、平成25年度に発表されたお達者度(平成22年度結果)では男性4位、女性6位となった。</p> <p>○健康長寿の秘訣は食生活や運動習慣、社会参加といわれており、これまで健康づくりに関心なかった方呼び込むために平成25年度よりすそのマイレージ事業を実施している。また、3人グループで3か月間目標に取り組むすその33プログラム等の事業も継続実施した。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミナールに期待すること</p>	<p>・平成26年度は助成対象研究として市が実施した「裾野市民アンケート」結果を基に居住地区、性別、年齢等について分析していただいた。</p> <p>今年度は更にこの結果から市民の健康に関するニーズに見合った事業の整理(廃止も伴う)、新規事業の提案等をお願いしたい。</p> <p>・健康長寿の秘訣は食生活や運動習慣、社会参加といわれており、これはお達者度とも関連が深いといわれている。裾野市の健康づくり事業として運動・食生活・社会参加のうち、どの分野に力を入れたほうがいいのか。</p> <p>・健康推進課では多くの事業を実施している。既存の事業あるいは新規事業を検討するうえで、注力すべき事業、事業の統廃合、事業の優先度などに関する調査・分析をお願いしたい。</p> <p>・医療や歯科・栄養等専門的な分野としての分析にとどまらず、経営や経済等を含めた様々な視点からの調査・分析・アドバイスをお願いしたい。</p> <p>・平成27年度に開催する裾野市民健康づくり推進協議会へアドバイザーとして参加をお願いしたい。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>・裾野市地域保健委員会・裾野市地域保健委員会OB会(すみれ会)・裾野市食生活健康推進会・8020推進委員会・運動ボランティア・裾野こころのボランティア・健寿の会等健康推進課関連団体</p> <p>・区長連合会・婦人会・老人クラブ連合会・民生委員・児童委員協議会・スポーツ推進委員・学校長会等裾野市民健康づくり推進協議会委員を推薦いただいている団体</p> <p>・団体ではないが、在宅の専門職種(栄養士・歯科衛生士・保健師)</p> <p>・状況により沼津医師会裾野地区医師・駿東歯科医師会裾野市支部歯科医師</p>		
<p>ゼミナールに対する地域の支援</p> <p>※ゼミナールに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>・福祉保健会館内会議室等の借用可能</p> <p>・健康推進課保管の統計資料等の閲覧可能</p> <p>・健康推進課保有の情報提供</p>		
御担当者	所 属	裾野市役所健康福祉部健康推進課	
	連 絡 先	TEL	055(992)5711
		FAX	055(992)5733

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	裾野市	No. 15	学生に取り組んでもらいたい地域課題等	
			放課後児童クラブ夏休み中のニーズ調査と運営検証・研究	

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>○平成27年度放課後児童クラブのニーズは、全体の申込件数410件と定員を40件上回り、近年この超過状態が続いている。</p> <p>○小学校低学年の子供を持つ子育て世代、働くお母さんの家庭において、夏休み等の長期休暇の子供の過ごし方には不安があり、現実的にはその間仕事を辞める、あきらめざる負えない方も多い。</p> <p>○本来放課後児童クラブは、4月に入所した子供が継続的に夏休み中も利用しているが、夏季休業中だけでも保護者の就労を理由に利用したいと思う家庭があるのであれば、市として支援していく必要があると考える。</p> <p>○夏休みの利用を担保するために、年度当初から入室し、夏休み以降に退室する利用者が少ない。4月～7月の利用者過多が課題となっており、年度当初の利用者調整に困難をきたしている。</p> <p>○子供子育て世代に切れ目ない安定的な育児の場の提供をする必要性を感じるため、利用者ニーズを調査し、今後の事業化への分析を必要としている。</p>			
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>○夏休み中の放課後児童クラブの利用ニーズを調査し、利用形態の多様化に対応するための各種方策等を検証、提案する。</p> <p>○子供の安全、安心を担保する夏休みの過ごし方を放課後児童クラブの運営を元に検討し提案する。</p> <p>○現在の運営の課題解決を提案する。</p> <p>○ゼミ生の目線での運営や子供たちの過ごし方について提案を求める。</p> <p>○試行的に提案事項の一部を実施する。</p>			
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>○9小学校10教室の放課後児童クラブ</p> <p>○運営主体となっている社会福祉法人、各育成会</p> <p>○行政、教育委員会</p>			
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>○公共教育施設の借用可能</p> <p>○公共施設の会議施設等の借用可能</p> <p>○子ども教育課保有の情報提供(個人情報・機密事項は除く)</p>			
連絡先	所 属	H26：教育部 子ども教育課		
	連 絡 先	TEL	055 (995)	1822
		FAX	055 (992)	3681

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	裾野市	No. 16	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			深良用水を地域資源とした活性化について

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>○裾野市深良地区には、およそ350年前に、神奈川県芦ノ湖から隧道を使って水を引くという大工事を行った「深良用水」があり、現在も裾野市を含む2市2町において、農業用水等に活用されている。</p> <p>○平成17年には、農林水産省による「日本の疏水百選」に選ばれ、昨年9月には、その歴史的・技術的価値が認められ、国際かんがい排水委員会によりかんがい施設遺産に登録された。しかしながら、同時に遺産登録された国内の他のかんがい施設に比べると、周辺整備や対外的なアピール等の面で劣っていると言わざるを得ない。</p> <p>○この貴重な地域資源を生かすにはどうすればいいか、内外へ広報し多くの方に知っていただける施設にしていきたいと考える。地域の抱える問題点等も踏まえながら学生の視点で調査・研究及び企画提案していただきたいと考える。</p> <p>※現状説明として一組の水利組合の管理下にあり発電事業に活用している。外来魚の流出、規制を行っており、隧道である。</p>			
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>○外部からの視点と学生ならではの発想で、実現性と夢のあるアイデアを希望</p> <p>○調査結果については、ある程度具体的な企画・プランを提案していただきたい。</p>			
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>○深良地区区長会・深良財産区・その他地元団体</p> <p>○芦湖水利組合</p> <p>○深良地区郷土資料館</p>			
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>○深良地区コミュニティセンター内施設の無償貸与</p> <p>○地元団体との連絡調整 等</p>			
<p>連絡先</p>	所 属	市民部 地域振興課 深良支所		
	連 絡 先	TEL	0 5 5 (9 9 2)	0 4 0 0
		FAX	0 5 5 (9 9 3)	7 2 3 1

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	伊豆市	No. 17	学生に取り組んでもらいたい地域課題等	
			2020東京オリンピック・パラリンピック、2016アジア自転車競技選手権日本大会受入体制の構築に関する調査研究	

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>伊豆市の「伊豆ペロドローム」においては、アジア自転車競技選手権日本大会(2016年)の開催が決定しており、現在、東京オリンピック・パラリンピック(2020年)の自転車競技の開催についても検討が進められている。これらが開催される際には、選手や応援団など数多くの人々の来訪が予想されることから、周辺地域の受入態勢(ハード面・ソフト面)の構築が急務である。</p> <p>開催時は、地域商店、土産物店、飲食店や旅館・ホテルは多くの客で賑わうことが想定されるため、地域における経済波及効果はとても多い。</p> <p>しかしながら、どれだけの客が訪れ、どれだけの消費をするかが不明であり、また外国人の習慣の違いによるトラブルが発生することも想定されている。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p><経済波及効果に対する調査研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間中の地域における経済波及効果を予測していただくことで、マクロ的な受入態勢構築のための予算への参考にする。 ・ある一店舗における商品の販売量や、宿泊客数の予測をしていただくことで、販売機会損失のための在庫調整の指標にするなどの参考にする。 ・地域資源を活用したどんな商品であれば、どの国の方に売れるかを予測していただき、商品開発の参考にする。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・導線を考慮し、どこに通訳をどのくらい配置すればよいかを予測していただくことで、受入態勢構築の参考にする。 ・地域の人に対して、外国人の習慣の違いなど、あらかじめ注意すべきことをセミナー等で教えていただき、意識付けをする。 		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>伊豆市役所 伊豆市商工会 伊豆市観光協会 など</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>市職員が、ゼミの学生に対して公用車を利用して、市内を案内 など</p>		
連絡先	所 属	産業部産業振興課	
	連 絡 先	TEL	0 5 5 8 (7 2) 9 9 1 0
		FAX	0 5 5 8 (7 2) 9 9 0 9
e-mail	sangyo@city.izu.shizuoka.jp		

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	伊豆市	No. 18	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			伊豆市の特産品を活かした『とっておきのお土産』の商品開発

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	<p>伊豆市には、ワサビ、シイタケ、イズシカ、白ビワ、梅、アマゴ、鮎、黒米、弘法芋、天草などたくさんの特産品があります。このような特産品がある中で伊豆市に行ったらこれ!というお土産がありません。</p> <p>これから訪れていただきたい若者の目線から商品を開発することにより、伊豆市を若者にPRしていきたいと思えます。また、今お越しにいただいている年配の方に対してもおいしく召し上がれるような伊豆市のお土産を学生たちと一緒に開発していきたいと考えています。またこれを機会に若者たちに対して伊豆市が育む特産品を知っていただくとともに、今あるお土産や郷土料理についても若者の視点から伊豆市をPRする素材はないか再発見したいと考えています。</p> <p>※伊豆市は平成22年度から東京都にある大妻女子大学と大学連携を行ってきました。このつながりを生かして静岡県内の大学生には内からの目、大妻女子大学には購買者としての外からの目で連携していきたいと考えています。</p>		
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	若者が望む観光地でのお土産の調査、お年寄りが望む観光地でのお土産の調査、栄養価を含めたお土産(メニュー)の開発、PR方法		
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	伊豆市役所、伊豆市観光協会、伊豆市商工会、JA伊豆の国などの各種団体		
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例:所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) 伊豆市観光協会や伊豆市商工会などへの協力体制のバックアップ		
連絡先	所 属	産業部観光課観光企画スタッフ	
	連 絡 先	TEL	0558 (72) 9911
		FAX	0558 (72) 9909
e-mail	kanko@city.izu.shizuoka.jp		

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	伊豆の国市	No. 19	学生に取り組んでもらいたい地域課題等	
			伊豆の国市の観光に係る課題とその解決方法の調査	

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>平成26年度、伊豆の国市では、「伊豆の国市観光基本計画」を策定し、平成27年度以降10年間の、市の観光振興に係る目標や方針を定めたところである。</p> <p>また、平成27年度は、当該計画に基づく、観光振興に係るアクションプラン(行動計画)を策定し、具体的事業や役割分担等を定めることを予定している。</p> <p>当該アクションプランについては、同年度、市が設置する「伊豆の国市観光戦略会議」において検討・調整され、最終的に案が市に対して提出されるスキームだが、その内容となる具体的な事業案の多くは、当該会議が設置する、市民主体によるワーキンググループにおいてプランニングしていくことを予定している。</p>			
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>市の観光における「強みと弱み」、また、大まかな「課題」は、「伊豆の国市観光基本計画」の策定に当たり、市民等で構成したワーキンググループ等を中心に抽出してきたところである。しかしながら、それらは基本的に市民目線で抽出されたものであり、客観性が十分であるとは言えない。</p> <p>そのため、市外の方々として、そして、学生としての目線で課題を抽出し、今後の市の活性化(観光交流人口の拡大)に繋がる解決方法を御提案いただきたい。</p> <p>解決方法として挙げられた具体的事業については、「伊豆の国市観光戦略会議」に諮り、積極的にアクションプランに反映させていきたい。</p>			
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>伊豆の国市観光協会、伊豆長岡温泉旅館協同組合、伊豆の国市商工会、JA伊豆の国、その他事業者等</p>			
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>市内観光施設を調査する際のガイドの手配、所有施設の無償貸与、上記団体等への橋渡し</p>			
連絡先	所 属	市長戦略部観光文化局観光課観光企画係		
	連 絡 先	TEL	055 948 1480	
		FAX	055 948 2926	

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	伊豆の国市	No.	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
		20	古奈温泉あやめ小路界隈における空き店舗活用による温泉街の活性化

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

<p>課題等の概要</p> <p>※要望する背景や理由</p>	<p>伊豆の国市の古奈温泉は、弘法大師が修善寺温泉・独鈷の湯を訪れる前に逗留していたともいわれ、鎌倉時代から將軍をはじめ武士や僧侶が利用したことが『吾妻鏡』などの古文書で確認できる歴史のある温泉である。しかし、近年温泉街の衰退は著しく、あやめ小路界隈に限っても、かつて15軒ほどあった旅館や店舗の半数が休業状態にある。</p> <p>これらのオーナーは自身の高齢化や後継者の不在により、空き店舗の活用に関する意欲にも欠けることから、そのまま放置されており、景観上好ましくなく、夜間は防犯上の懸念も抱かせる状況にあり、温泉街が寂れた印象を与えている。</p> <p>このため、休業状態の店舗等の有効活用を図り、古奈温泉あやめ小路界隈の賑わいの創出につなげたい。</p>		
<p>希望する調査研究内容、ゼミに期待すること</p>	<p>古奈温泉は、伊豆長岡駅から約1km、徒歩で10分程度の位置にあり、また駅から伊豆地域の拠点病院である順天堂大学医学部附属静岡病院や伊豆の国市役所を結ぶバス路線の途中であり、順天堂病院からは約500mに位置する。</p> <p>順天堂病院では、多くの若い女性看護師が勤務している他、多くの看護学生が実習に訪れている。これらの若い女性達が立ち寄れるような場をあやめ小路に創出させることにより、通行者の増加による賑わいの創出から、界隈の再生、ひいては伊豆長岡温泉全体の活性化へとつなげていきたい。</p> <p>このため、空き店舗活用策の検討や出来れば実際の活用などをお願いしたい。</p>		
<p>地域での連携団体</p> <p>※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等</p>	<p>古奈あやめ小路フォーラム (代表 安田昌代(楽山やすだ 女将))</p> <p>伊豆の国市都市整備部都市計画課他</p>		
<p>ゼミに対する地域の支援</p> <p>※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。</p>	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料提供 ・休業施設の貸与斡旋 		
連絡先	所 属	伊豆の国市都市整備部都市計画課都市政策係	
	連 絡 先	TEL	055 (948) 2909
		FAX	055 (948) 1468
e-mail	tosikei@city.izunokunishizuoka.jp		

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	小山町	No. 21	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			富士山特用林産物開発

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	<p>小山町は、富士山東麓に位置し小山町内における富士山国有林1379.01haの広大な面積を有している。その内の9,507㎡を国有林野使用許可のもとに、NPO法人富士山東麓木の根会と共同で特用林産物の開発に当たっているが、高冷多湿の特有の土地を生かした開発が思うように進んでいない状況である。 富士山を有する、小山町において富士山ブランド力を生かした特用林産物を開発し、地域の活性化を図りたい。</p>		
希望する調査研究内容、ゼミに期待すること	<p>小山町の富士山国有林における、高冷多湿の自然環境を生かした特用林産物の開発を含む調査研究を行い、世界遺産に登録された富士山のブランド力を生かした小山町の特産品を創造する。</p>		
地域での連携団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	NPO法人 富士山東麓 木の根会		
ゼミに対する地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	<p>(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等)</p> <p>実証試験場所の使用及び、内容により小山町から委託費として上乘せ</p>		
連絡先	所 属	小山町役場 経済建設部 農林課 林業班(特用林産物担当)	
	連 絡 先	TEL	0550-76-6112
		FAX	0550-76-2795
		e-mail	nourin@fuji-oyama.jp

(ゼミ学生地域貢献推進事業)

【平成27年度 地域ニーズ(課題)調査票】

市町名	川根本町	No. 22	学生に取り組んでもらいたい地域課題等
			地域資源の発掘と資源を活かしたまちづくり

*本調査票は、1テーマごとに1葉として下さい。

課題等の概要 ※要望する背景や理由	全国でも大きな課題となっている人口減少問題、また国が推進する地方創生。町では、新たな地域資源を発掘し、資源を活かした戦略を策定しようとしている。このような状況下、外部の若者の意見を聞き、新たな地域資源の発掘、資源の活用方法を見出すことが必要と考えられる。		
希望する調査 研究内容、ゼミに期待すること	外部の大学生(若者)が、見た・聞いた・感じた、眠っている地域資源の発掘と、その資源を活かした地域活性化策		
地域での連携 団体 ※調査研究を行う際に情報収集や意見交換等で連携する団体等	千年の学校(町企画課事務局)		
ゼミに対する 地域の支援 ※ゼミに対し、貴団体や連携団体で支援いただける事項がありましたら具体的に御記入ください。	(例：所有施設の無償貸与、地域団体(自治会、企業等)への橋渡し 等) ・所有施設の無償貸与 ・地域団体(千年の学校)への橋渡し ・町に関連した資料提供		
連絡先	所 属	企画課 まちづくり室	
	連 絡 先	TEL	(0547) 56-2221
		FAX	(0547) 56-2235